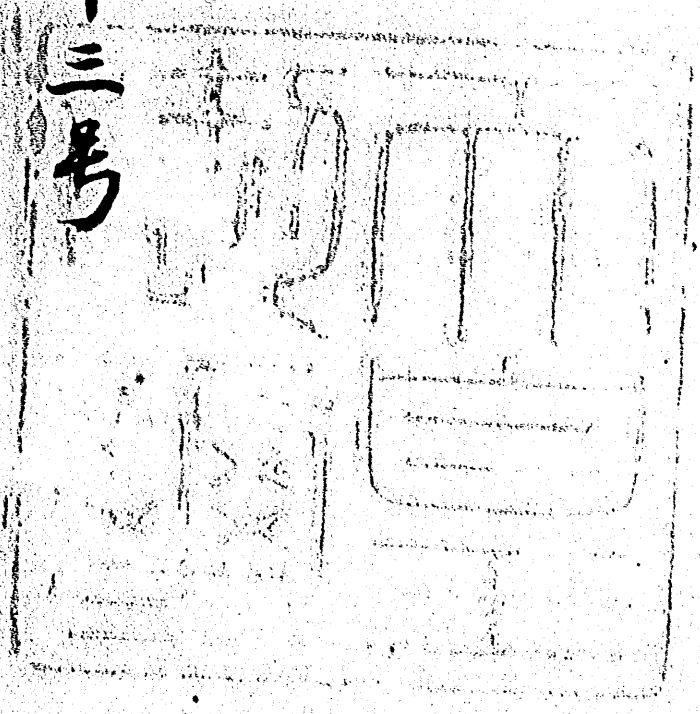
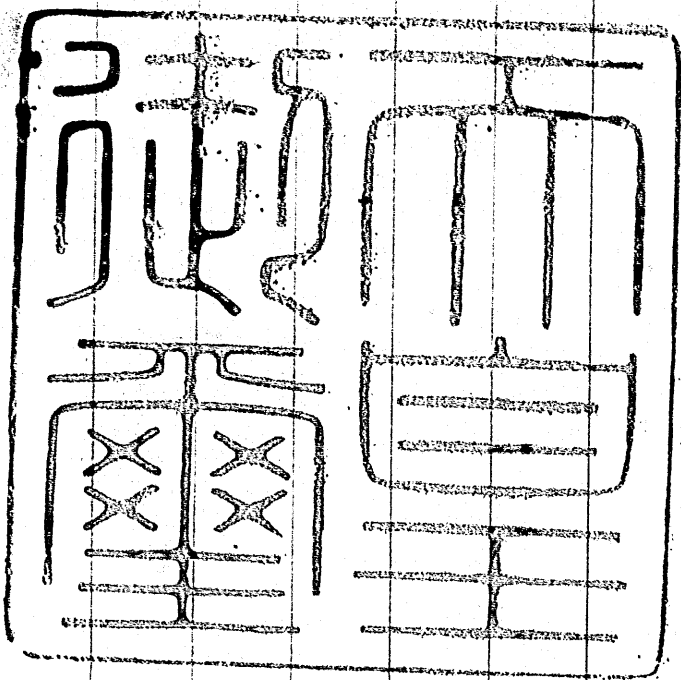


法律第六十三号



朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル東洋拓殖株式會社法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

睦仁



明治四十一年八月二十六日

月

内閣總理大臣兼侯爵桂太郎  
農商務大臣男爵大浦筆武  
司法大臣子爵岡部長職

法律第六十三號

東洋拓殖株式會社法

第一章 總則

第一條 東洋拓殖株式會社ハ韓國ニ於テ拓殖事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トシ其ノ本店ヲ韓國ニ置ク

第二條 東洋拓殖株式會社ノ資本ハ一千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 東洋拓殖株式會社ノ株式ハ總

テ記名式トシ日韓兩國人ニ限り之ヲ  
所有スルコトヲ得

第四條 東洋拓殖株式會社ノ資本増加  
ハ株金全額ノ拂込アルコトヲ要セス

第五條 東洋拓殖株式會社ノ存立時期  
ハ設立登記ノ日ヨリ百年トス但シ政  
府ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ  
得

第六條 東洋拓殖株式會社ハ政府ノ認可  
ヲ受ケ支店又ハ出張所ヲ東京具ノ

他ノ地ニ置ク

第二章 役員

第七條 東洋拓殖株式會社ニ總裁一人  
副總裁二人理事四人以上、監事三人以  
上ヲ置ク

第八條 總裁ハ東洋拓殖株式會社ヲ代  
表シ其ノ業務ヲ總理ス  
副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務  
ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ  
行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ分掌ス

第九條 總裁ハ日本人トシ政府之ヲ命ス

副總裁ハ一人ハ日本人トシ一人ハ韓國人トス

理事及監事ハ其ノ員數ノ少クトモ三分ノ二ハ日本人トシ其ノ他ハ韓國人トス

副總裁及理事中日本人ハ政府之ヲ命シ韓國人ハ韓國政府之ヲ命ス但シ理事ノ任命ニ付テハ株主總會ヲシテ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ各二倍ノ候補者ヲ選舉セシム  
監事ハ株主總會ニ於テ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ之ヲ選舉ス  
總裁、副總裁及理事ノ任期ハ五年トシ監事ノ任期ハ二年トス  
第十條 總裁、副總裁及理事ハ他ノ職務

又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ  
政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限  
ニ在ラス

第三章 營業

第十一條 東洋拓殖株式會社ハ左ノ業  
務ヲ營ムモノトス

- 一 農業
- 二 拓殖ノ爲必要ナル土地ノ賣買及  
貸借
- 三 拓殖ノ爲必要ナル土地ノ經營及

管理

- 四 拓殖ノ爲必要ナル建築物ノ築造  
賣買及貸借
- 五 拓殖ノ爲必要ナル日韓移住民ノ  
募集及分配
- 六 移住民及韓國農業者ニ對シ拓殖  
上必要ナル物品ノ供給器具ノ生  
産又ハ獲得シタル物品ノ分配
- 七 拓殖上必要ナル資金ノ供給
- 第十二條 東洋拓殖株式會社ハ政府ノ

認可ヲ受ケ附帯事業トシテ韓國ニ於  
テ水産業具他拓殖上必要ナル事業ヲ  
營ムコトヲ得

第十三條 第十一條第七號ノ資金供給

ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フヘシ

一 日韓移住民ニ對シ二十五年以内  
ノ年賦償還ノ方法ニ依ル移住費  
ノ貸付

二 移住民及韓國農業者ニ對シ十五  
年以内ノ年賦償還ノ方法ニ依ル

韓國ニ於ケル不動産ヲ擔保トス  
ル貸付

三 移住民及韓國農業者ニ對シ五年  
以内ノ定期償還ノ方法ニ依リ韓  
國ニ於ケル不動産ヲ擔保トスル  
貸付

四 移住民及韓國農業者ニ對シ其ノ  
生産又ハ獲得シタル物品ヲ擔保  
トスル貸付

五 韓國ニ於ケル不動産ヲ擔保トス



ル三年以内ノ定期償還ノ方法ニ  
依ル貸付

前項第一號ノ貸付ニ付テハ豫メ具ノ  
方法及條件ヲ定メ政府ノ認可ヲ受ク  
ハシ

第一項第二號乃至第五號ノ貸付金總  
額ハ拂込資本額及社債未償還額ノ合  
計ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 不動産又ハ動産ヲ擔保トス  
ル貸付金額ハ東洋拓殖株式會社ニ於

テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内ト  
ス但シ前條第一項第一號ノ貸付ニ付  
テハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 不動産ヲ擔保トスル貸付ニ  
付テハ第一順位ノ擔保ナルコトヲ要  
ス

第十六條 貸付金ノ年賦償還ニ付テハ  
五年以内ノ据置年限ヲ定ムハシ

第十七條 年賦金ハ元金ト利子トヲ俣  
セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平

等ノ償還額ヲ定ムヘシ但シ据置年限  
間ノ利子ニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
第十八條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入  
ヲ為シタル債務者ハ償還期限前ニ借  
入金ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコト  
ヲ得

前項ノ場合ニ於テハ東洋拓殖株式會  
社ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ  
相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得  
第十九條 左ノ場合ニ於テハ償還期限

前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スル  
コトヲ得

- 一 債務者カ貸付ノ目的ニ及シテ貸  
付金ヲ使用シタルトキ
- 二 債務者カ年賦金ノ拂込ヲ遅延シ  
催告ヲ受クルモ尚拂込ヲ爲ササ  
ルトキ
- 三 擔保タル不動産ノ全部又ハ一部  
カ公用ノ爲收用セララルトキ但  
シ債務者ニ於テ收用補償金ヲ供



託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増  
擔保トスルトキハ此ノ限ニ在ラ  
ス

前項第三號ノ場合ニ於テ具ノ收用カ  
一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ具  
ノ割合ニ應スルキモノトス

第二十條 擔保物ノ價格減少シ償付金  
償還殘額ニ對シ第十四條ノ割合ニ不  
足ヲ生シタルトキハ増擔保ヲ要求シ  
又ハ具ノ不足ニ相當スル償付金額ノ

償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ  
償還期限前ト雖償付金全部ノ償還ヲ  
要求スルコトヲ得

第二十一條 營業上ノ餘裕金ハ一時國  
債證券ヲ買入レ又ハ政府ノ指定シタ  
ル銀行ニ預ケ金ヲ爲スノ外之ヲ使用  
スルコトヲ得ス

第二十二條 東洋拓殖株式會社ハ營業  
上必要アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ

借入金ヲ爲スコトヲ得

第四章 東洋拓殖債券

第二十三條 東洋拓殖株式會社ハ拂込  
資本額ノ十倍ヲ限リ東洋拓殖債券ヲ  
發行スルコトヲ得

東洋拓殖債券ヲ發行スル場合ニ於テ  
ハ商法第百九十九條ノ規定ヲ適用セ  
ス

第二十四條 東洋拓殖債券ヲ發行セム  
トスル場合ニ於テハ毎回其ノ金額條

件並發行及償還ノ方法ヲ定メ政府ノ  
認可ヲ受クヘシ

第二十五條 東洋拓殖債券ヲ發行スル  
場合ニ於テハ數回ニ分テ拂込ヲ爲サ  
シムルコトヲ得

第二十六條 東洋拓殖債券ハ金額拂込  
ノ後ハ無記名式トス但シ應募者又ハ  
所有者ノ請求ニ因リ記名式ト爲スコ  
トヲ得

第二十七條 東洋拓殖債券ノ所有者ハ

東洋拓殖株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先テテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第二十八條 東洋拓殖株式會社ハ社債借換ノ爲一時第二十三條ノ制限ニ依ラズ東洋拓殖債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月以内ニ具ノ社債總額ニ相當スル舊東洋拓殖債券ヲ償還スハシ

第二十九條 東洋拓殖債券ノ据置年限

ハ五年以内トシ具ノ償還期限ハ三十年以内トス

第三十條 東洋拓殖株式會社ハ政府ノ認可ヲ受テ東洋拓殖債券ノ買入消却ヲ爲スコトヲ得

第五章 準備金

第三十一條 東洋拓殖株式會社ハ每營業期ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益

ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

### 第六章 政府ノ監督及補助

第三十二條 政府ハ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ監督ス

第三十三條 政府ハ東洋拓殖株式會社  
監理官ヲ置キ韓國政府ノ任命シタル  
監理官ト共同シテ東洋拓殖株式會社  
ノ業務ヲ監視セシム

東洋拓殖株式會社監理官ハ何時ニテ  
モ東洋拓殖株式會社ノ金庫帳簿及諸

般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

東洋拓殖株式會社監理官ハ必要ト認

ムルトキハ何時ニテモ東洋拓殖株式

會社ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景

況ヲ報告セシムルコトヲ得

東洋拓殖株式會社監理官ハ株主總會

具ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ

陳述スルコトヲ得

第三十四條 政府ハ東洋拓殖株式會社  
ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ

發スルコトヲ得

第三十五條 東洋拓殖株式會社ノ決議  
又ハ役員ノ行爲法令若ハ定款ニ違反  
シ又ハ公益ヲ害スルモノト認ムルト  
キハ政府ハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役  
員ヲ解職スルコトヲ得東洋拓殖株式  
會社ノ役員ニ於テ監督官廳ノ命シタ  
ル事項ヲ執行セサルトキ亦同シ

第三十六條 東洋拓殖株式會社ハ政府  
ノ認可ヲ受クルニ非サレハ利益金ノ

處分ヲ爲スコトヲ得ス

第三十七條 東洋拓殖株式會社ニ於テ  
移住規則其ノ他ノ規定ヲ定ムルトキ  
ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三十八條 東洋拓殖株式會社ニ於テ  
政府ノ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セ  
ムトスルトキハ更ニ政府ノ認可ヲ受  
クヘシ

第三十九條 政府ハ東洋拓殖株式會社  
ニ對シ設立登記ノ日ヨリ起算シ八年

間ヲ限り毎年金三十萬圓ヲ每營業期  
ニ割當テ補給スレ但シ每營業期ニ  
於ケル利益配當カ拂込資本額ニ對シ  
年八分ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ  
超過額ニ相當スル金額ヲ補給金ノ内  
ヨリ控除ス

第四十條 利益配當カ拂込資本額ニ對  
シ年一割ノ割合ヲ超過スルトキハ其  
ノ超過金額ハ先ツ之ヲ前條補給金ノ  
償還ニ充ツヘシ

前項ノ償還ヲ終ヘタルトキハ該超過  
金額ハ其ノ半額ヲ特別積立金トスヘ  
シ

第七章 罰則

第四十一條 東洋拓殖株式會社ニ於テ  
左ノ事犯アルトキハ總裁若ハ總裁ノ  
職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副總裁ヲ百  
圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス其ノ事  
犯副總裁又ハ理事ノ分擔業務ニ係ル  
トキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處ス



ルコト亦同シ

一 本法ニ於テ政府ノ認可ヲ受クハ  
キ場合ニ具ノ認可ヲ受ケサルト  
キ

二 第十一條ノ規定ニ依ラス業務ヲ  
營ミタルトキ

三 第十三條乃至第十七條ノ規定ニ  
違反シ資金ヲ供給シタルトキ

四 第二十一條ノ規定ニ違反シ營業  
上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

五 第二十三條ノ規定ニ違反シ東洋  
拓殖債券ヲ發行シタルトキ但シ  
第二十八條ノ場合ハ此ノ限ニ在  
ラス

六 第二十八條ノ規定ニ違反シ東洋  
拓殖債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

七 第三十一條及第四十條ノ規定ニ  
違反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第四十二條 東洋拓殖株式會社ノ總裁  
副總裁又ハ理事第十條ノ規定ニ違反

シタルトキハ二十圓以上二百圓以下  
ノ過料ニ處ス

第四十三條 前二條ニ規定セル過料ニ  
付テハ非訟事件手續法第二百六條乃  
至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

附則

第四十四條 政府ハ設立委員ヲ命シ韓  
國政府ノ命シタル設立委員ト共同シ  
テ東洋拓殖株式會社ノ設立ニ關スル  
一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十五條 設立委員ハ定款ヲ作り政  
府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集ス  
ヘシ

第四十六條 設立委員ハ株主ノ募集終  
リタルトキハ株式申込書ヲ政府ニ差  
出し東洋拓殖株式會社設立ノ認可ヲ  
申請スヘシ

第四十七條 設立認可アリタルトキハ  
設立委員ハ遷滯ナク各株ニ付第一回  
ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員

ハ遅滞ナク創立總會ヲ招集スヘシ

第四十八條 創立總會終結シタルトキ

ハ設立委員ハ其ノ事務ヲ東洋拓殖株式會社總裁ニ引渡スヘシ

第四十九條 第一期ノ理事及監事ハ株

主總會ノ選舉ニ依ラス之ヲ任命ス其

ノ他ノ條件ニ付テハ第九條ノ例ニ依

ル